

本高14号墳から考える鳥取の古墳時代

～なぜ因幡に山陰「最古」の前方後円墳が造られたのか～

2018. 10. 20 (SAT)

県立公文書館県史編さん室 専門員 東方 仁史

はじめに

1 本高14号墳とは

所在地：鳥取市本高

立地：千代川左岸の狭い丘陵尾根上。

東と南に眺望が開け、鳥取平野の多くを望むことができる

発見の経緯：平成21（2009）年、一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財の発掘調査で発見、その後保存が決定

墳形：前方後円墳（「柄鏡形」）、前方部を東（東南東）に向ける

規模：全長63m、後円部径37m、同高4.6m、前方部長34m、同幅14m

※後円部頂上に壇状施設あり

外表施設：後円部2段築成、葺石・埴輪なし、地山整形＋一部盛土

埋葬施設：後円部頂に2基、前方部に2基、古墳周囲に2基、計6基

うち、後円部頂以外の4基を調査

副葬品：【埋葬施設3】銅鏡（仿製内行花文鏡）、水晶製勾玉、緑色凝灰岩製管玉

【埋葬施設4】鉢、ガラス小玉、土師器（枕）

【埋葬施設5】土師器小型丸底壺（棺上）

※【埋葬施設6】は副葬品なし

時期：古墳時代前期中葉（4世紀前半頃？）

周辺の遺跡・古墳：本高古墳群が位置する丘陵上には宮谷、古海、徳尾古墳群などが分布。周辺の丘陵にも釣山、服部古墳群などが存在。また、眼前の平野部に、山ヶ鼻遺跡、菖蒲遺跡、本高弓ノ木遺跡、尾根を超えた西側に大桷遺跡など、多数の古墳・遺跡が存在。

2 古墳時代と前方後円墳

(1) 古墳時代とは

古墳時代とは…古墳が築かれた時代。3世紀後半～6世紀代の約350年間

古墳とは…一定以上の権力者の墓。土を持って築いた墳丘や豪華な副葬品を有する。東北～九州まで、全国に数十万基築かれた。

※土を盛って築いた墓は弥生時代や古代以降も存在。

→ある共通の「約束事」に基づき築造・埋葬が行われた前方後円墳（「定型化前方後円墳」）の要素を共有し築かれた墓。

◎時期ごとに墳丘、埋葬施設、副葬品に違いがあり、被葬者の性格、王権との関わり、他地域との交流など、さまざま事象を反映する。「見せる事を意図／見られることを意識」

(2) 前方後円墳とは

古墳…円墳、方墳、前方後円墳、前方後方墳、多角形墳、双円墳、双方中円墳、上円下方墳

※横穴墓、地下式横穴墓、洞窟葬など、墳丘を持たないものも

前方後円墳…○と□（台形）がつなぎ合わされた平面形態の古墳。後円部が方形のものは前方後方墳。

合わせて五千基以上。箸墓古墳（奈良県）がその最初期のものと考えられ、大山古墳（大阪府）が最大。古墳時代を通して存在。

◎築造数が限られること、規模が大きいこと、埋葬施設や副葬品、外表施設が隔絶していることなどから、一貫して大規模な前方後円墳を築いた『ヤマト王権』との関わりが考えられる。ゆえに、古い前方後円墳が見つかり、ニュースになる。

古墳時代…小国家の分立していた弥生時代から、ヤマト王権のもとに地方が組み込まれ、全国を支配した律令国家の成立へ向けて、国家体制に関わる整備が進んだ時期。

※古墳時代がいかなる国家段階だったのか、論者によって異なる。また、時期によってその国家像も異なる。

3 本高14号墳と山陰の古墳時代前期

(1) 本高14号墳発見前の状況

山陰は方墳や前方後方墳の世界…前方後円墳が築かれる地域より、下位に位置づけられていた。

→弥生時代後期の「四隅突出形墳丘墓」の系譜を引く。

山陰の前方後円墳…六部山3号墳（鳥取市）や馬山4号墳（湯梨浜町）などが最古、前期中葉

→近年、過去の出土資料の再検討で時期に変動生じる

ex. 馬山4号墳は古墳時代前期後葉まで時期が下る

◎因幡の特徴…前期から、古墳時代を通して集中して古墳が築かれる

前期を象徴する副葬品（三角縁神獣鏡、腕輪形石製品）が未発見

(2) 山陰の前期古墳編年

前葉…方墳で統一される。後半になって前方後方墳が築かれる。

中葉…本高14号墳が因幡に築造される。同じ頃？国分寺古墳（伯耆）

やや遅れて、六部山3号墳（因幡）、廻田1号墳・大寺1号墳（出雲）などが築造

後葉…馬山4号墳（伯耆）、終わり頃に古郡家1号墳（因幡）

◎本高14号墳築造の背景

本高14号墳が築かれた場所…千代川左岸の丘陵上

眼下に本高弓ノ木遺跡（ほぼ同時期の木製構造物、護岸など）

→大規模土木工事を行う高度な技術の導入、それを指揮するリーダーの存在

◎埴輪・葺石なし、埋葬施設が竪穴石槨ではない

→墳形のみ前方後円墳で、基本は地域の伝統の上にある

◎千代川左岸の複数の古墳群で、ほぼ同時期に古墳の築造が開始

(3) 課題

◎中心埋葬施設が未調査…埋葬施設の種類、規模、副葬品などが不明

→時期決定、性格付けが不可能

◎周辺的大型古墳（里仁29号墳、桝間1号墳、古海36号墳など）が未調査

→昨年度、測量調査を実施。規模や墳形などが明らかに。

おわりに

新鳥取県史資料編考古2「古墳時代」…平成31年度末（2020年3月）刊行に向け、鋭意作成中。

乞うご期待！！

県史ブックレット19『森と生きた人々 —鳥取県の遺跡から—』絶賛発売中！！

【参考文献】

鳥取県教育委員会 2010『本高古墳群』鳥取県文化財調査報告 21

一瀬和夫・福永伸哉・北條芳隆編 2012『古墳出現と展開の地域相』古墳時代の考古学 2

松山智弘 2018「山陰」『前期古墳編年を再考する』中国四国前方後円墳研究会編

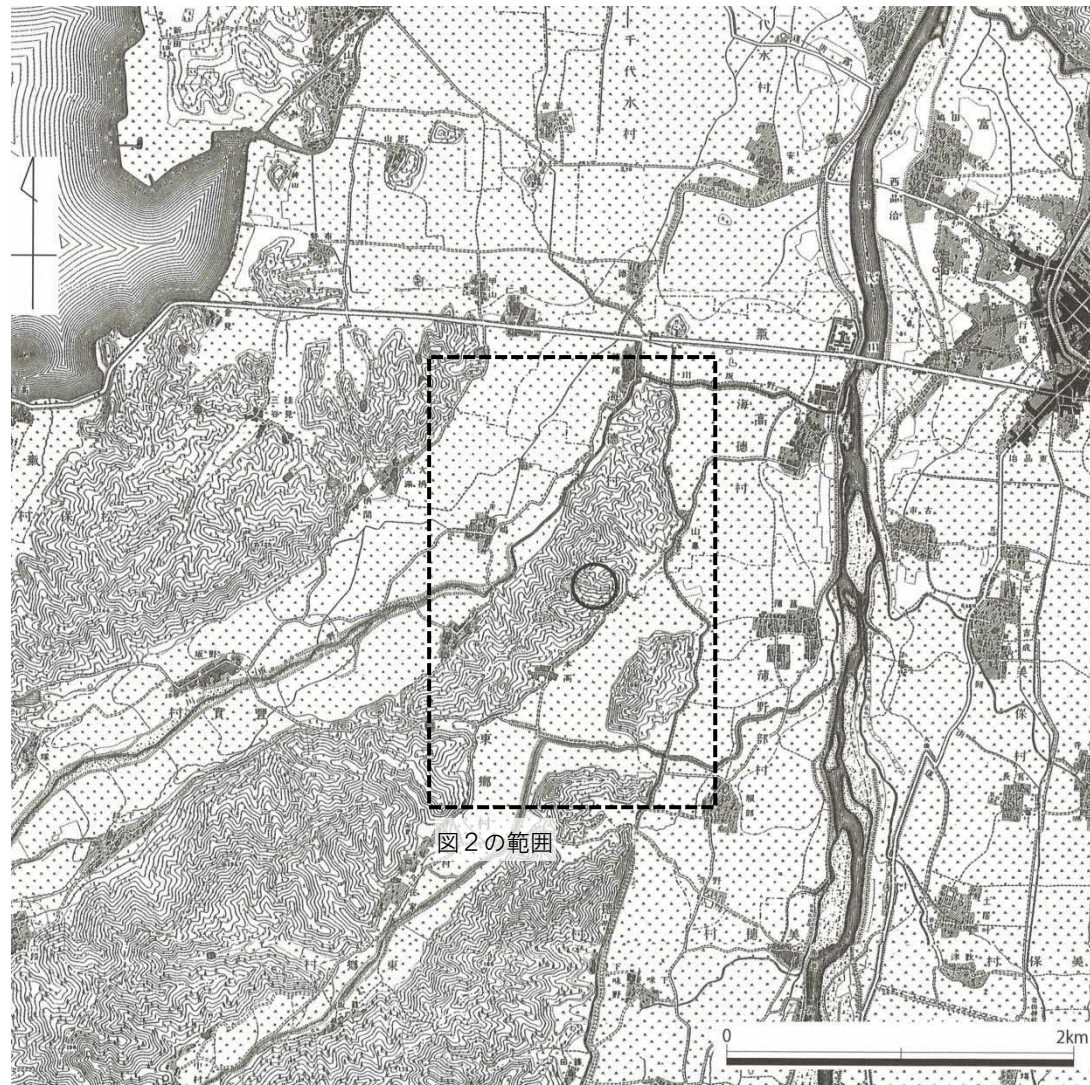


図1 本高古墳群の位置

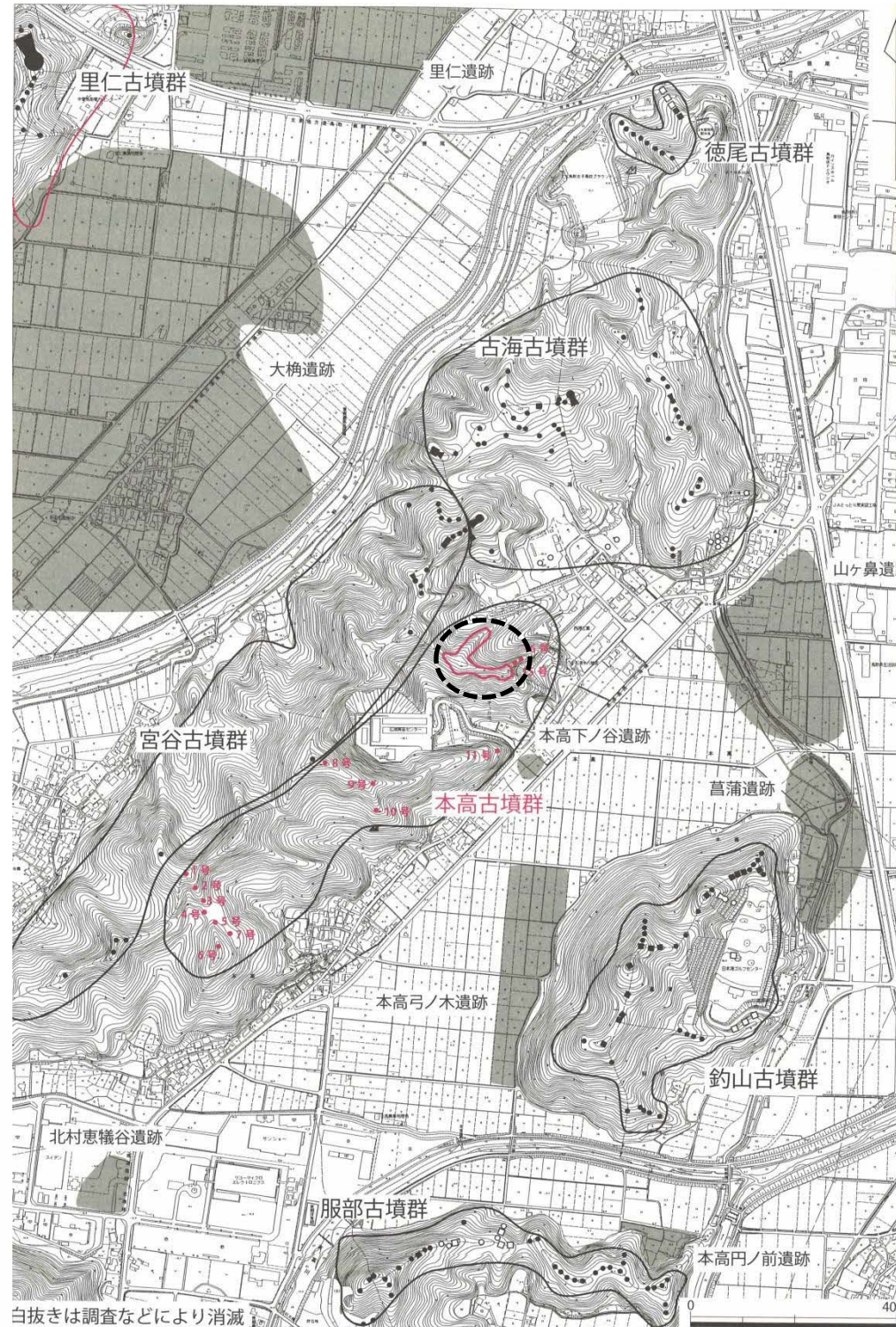


図2 本高古墳群と周辺の遺跡・古墳

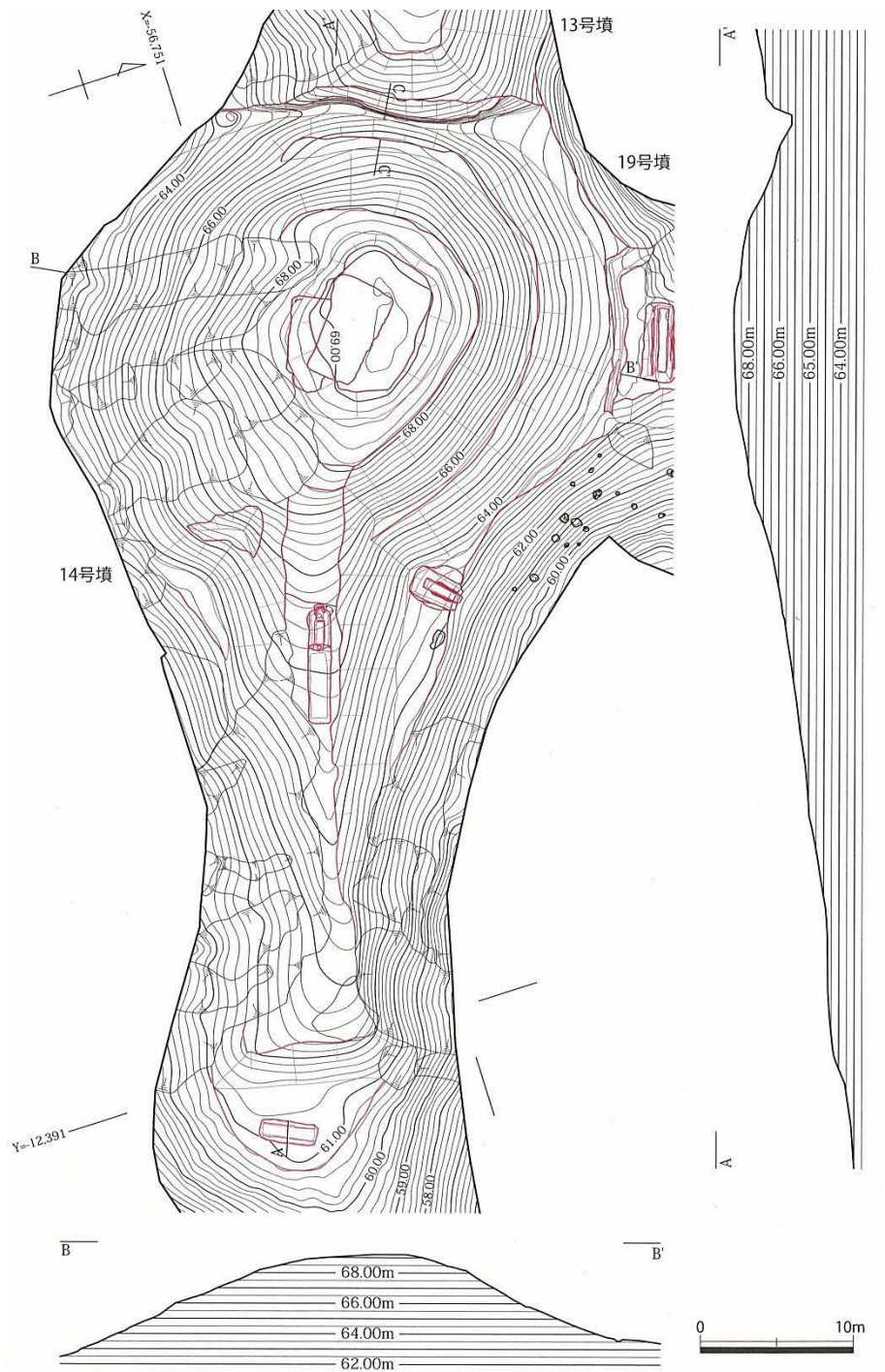


図4 本高14号墳 墳丘測量図

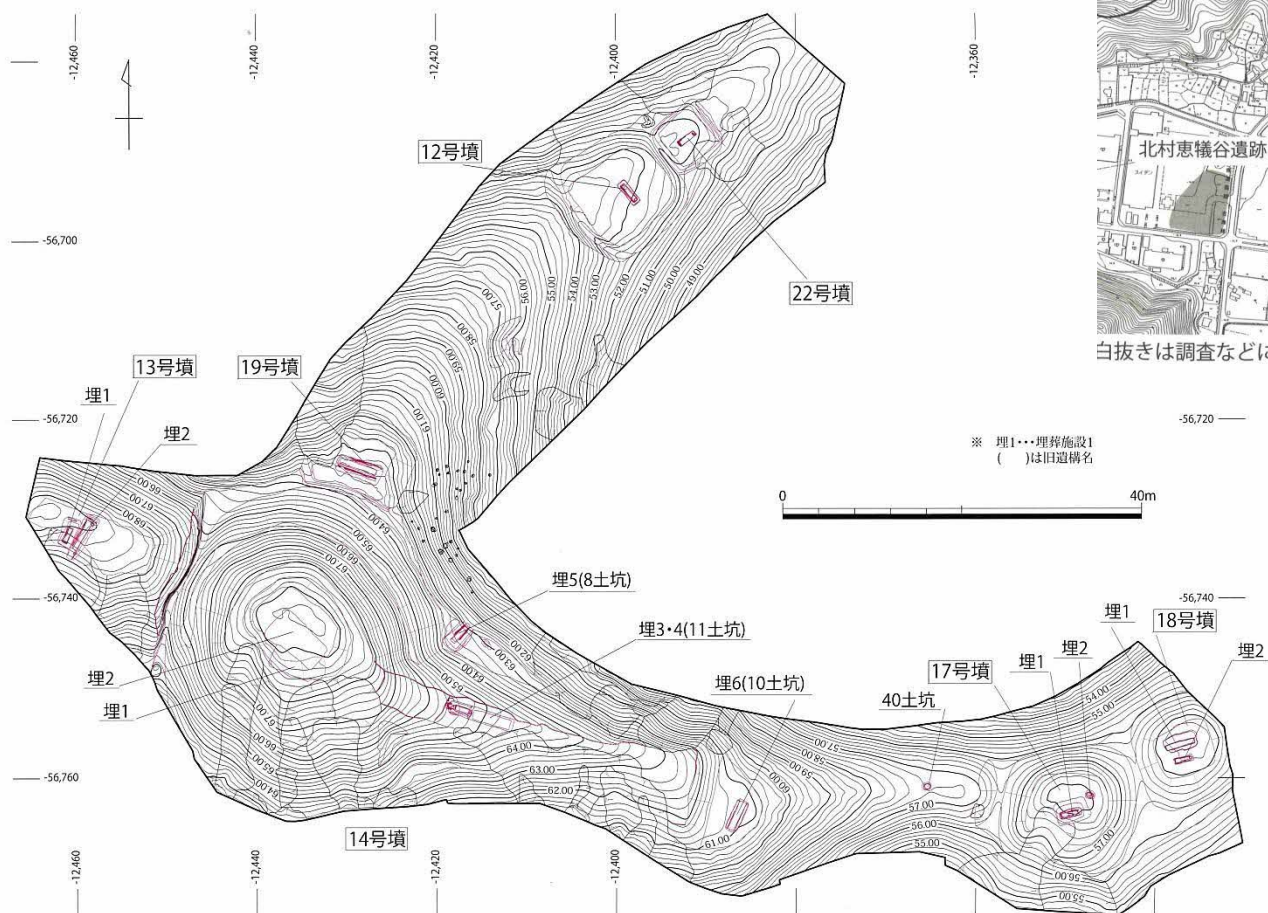


図3 本高14号墳と周辺の古墳

表1 本高古墳群一覧

古墳	墳形	推定規模	埋葬施設	時期	棺内副葬品	備考
A	前方後円	全長63 後円部30×33	6基(木棺2~6) (1未調査)	前期中葉	埋1(棺内未調査)	埋4 鼓形器台
					埋2(棺内未調査)	埋5 小型丸底壺
					埋3 小型仿製鏡・ 勾玉・管玉	埋6 土器枕 (鼓形器台)
B	方	11×8	1基(木棺)	前期後半	埋1 鉄剣・鉄鎌・ 鉈	埋2 土器枕 (鼓形器台)
					埋2 鉄剣・鉄鎌・ 鉈	埋2 土器枕 (鼓形器台)
C	方	12×11.5	1基(木棺)	中期	埋1 刀子・鉈	埋2 土器枕 (高坏)
					埋2 鉄剣	

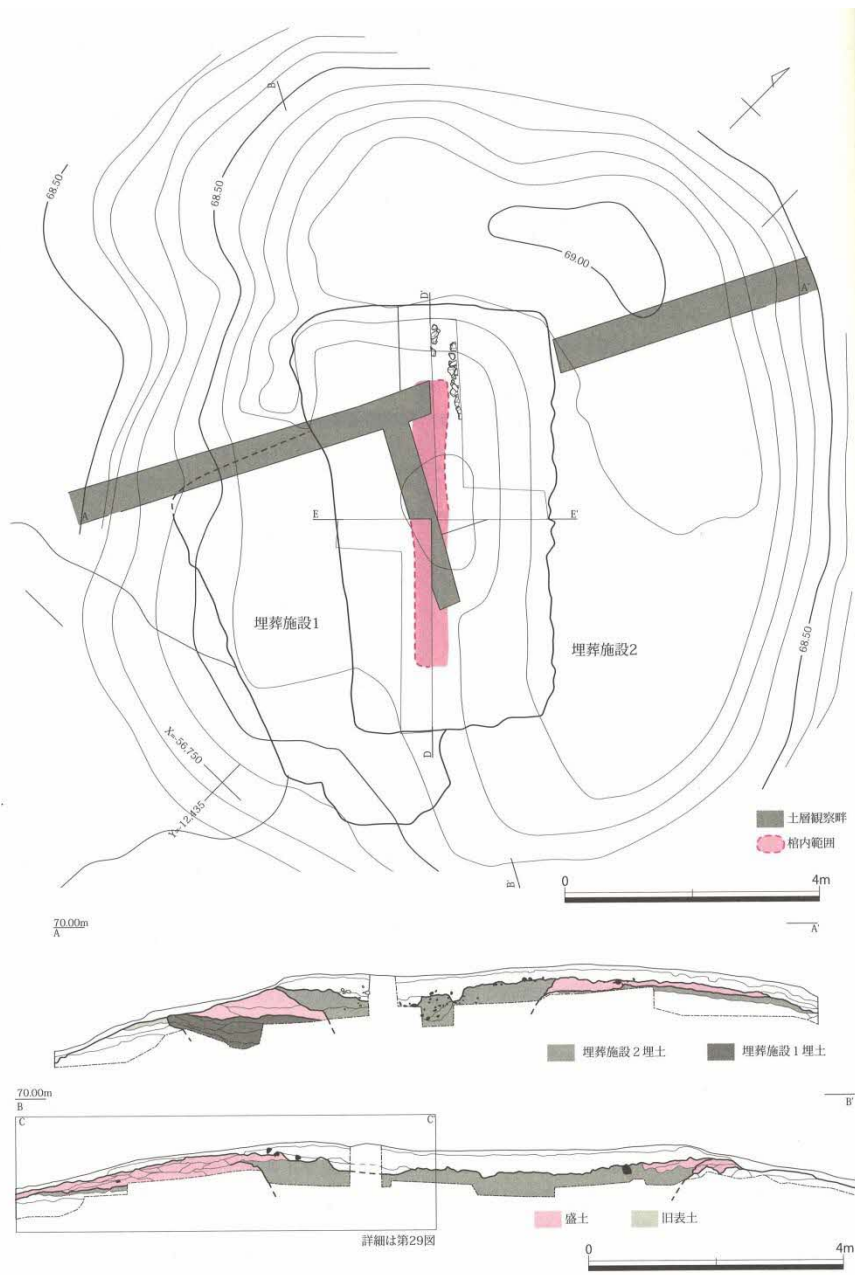


图5 本高14号墳 中心埋葬施設



图6 本高14号墳 埋葬施設3出土銅鏡

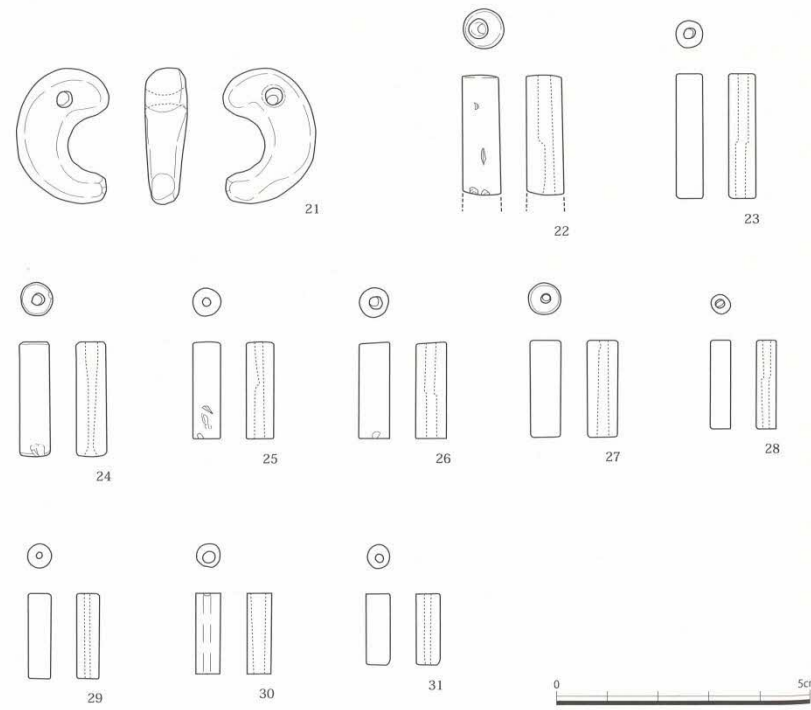


图7 本高14号墳 埋葬施設3出土玉類

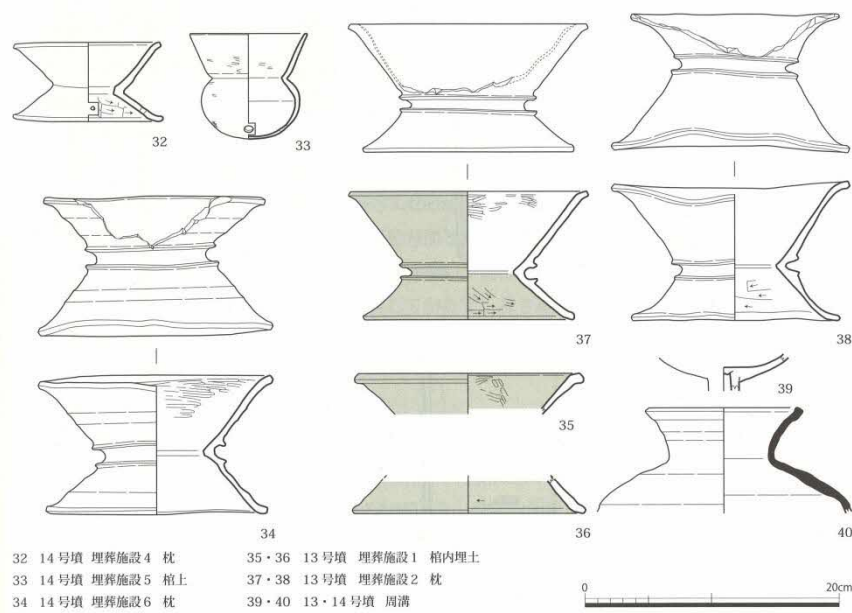


图8 本高13・14号墳 出土土器

32 14号墳 埋葬施設4 枕
33 14号墳 埋葬施設5 棺土
34 14号墳 埋葬施設6 枕
35・36 13号墳 埋葬施設1 棺内埋土
37・38 13号墳 埋葬施設2 枕
39・40 13・14号墳 周溝

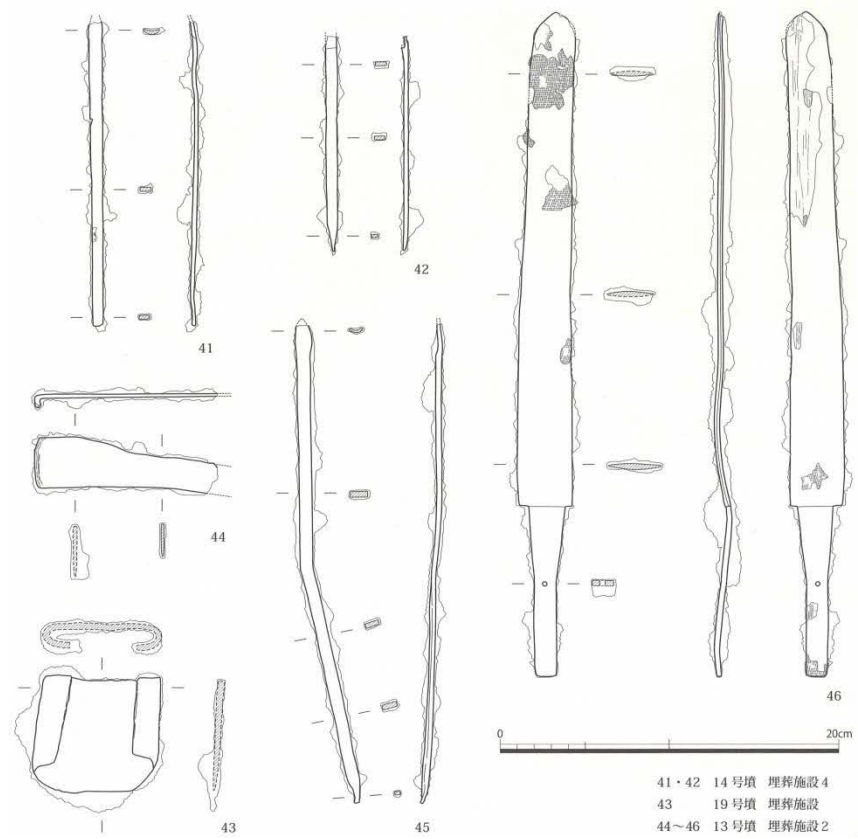


图9 本高13・14号墳 出土鉄製品

41・42 14号墳 埋葬施設4
43 19号墳 埋葬施設
44~46 13号墳 埋葬施設2

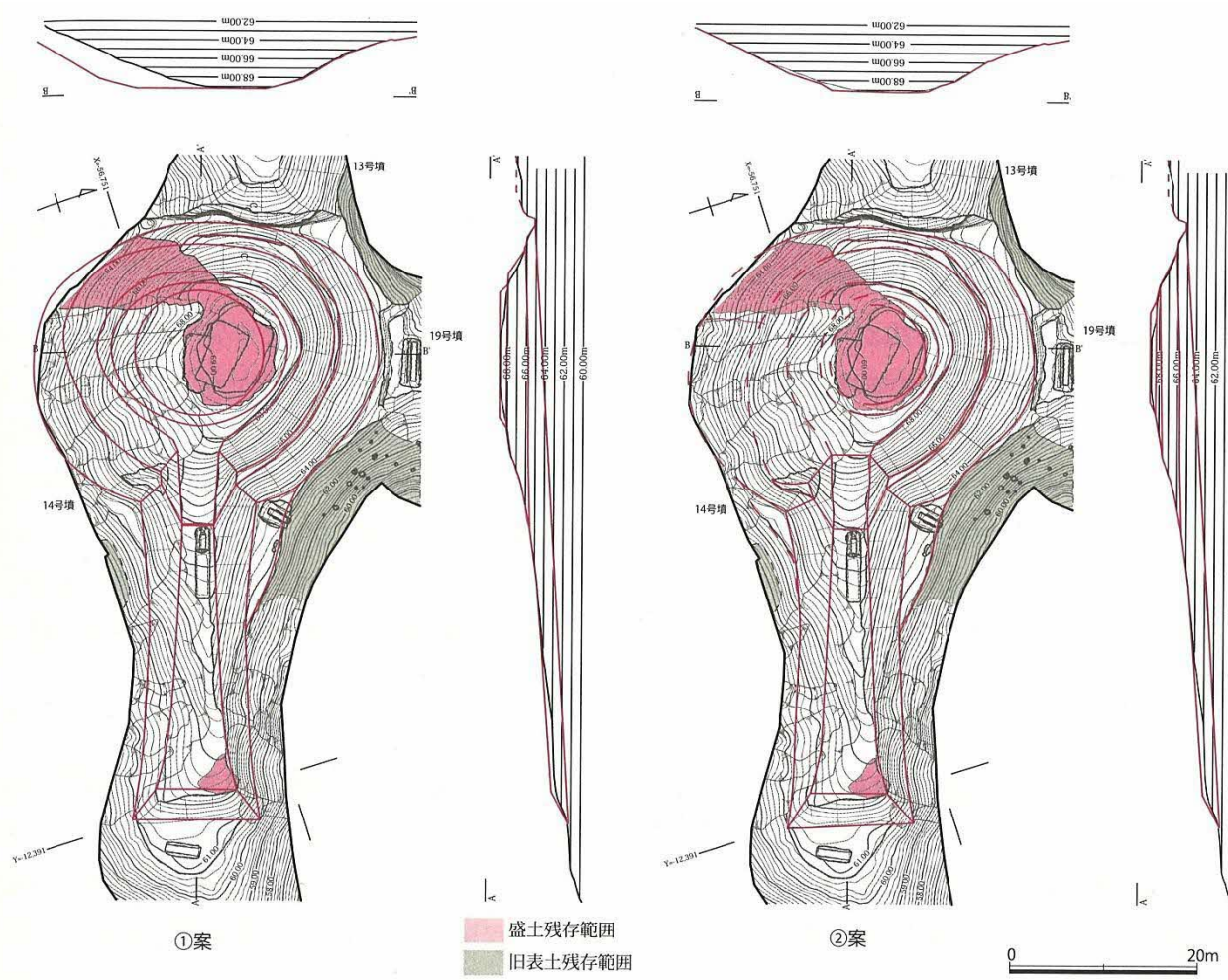


图10 本高14号墳 墳丘復元図

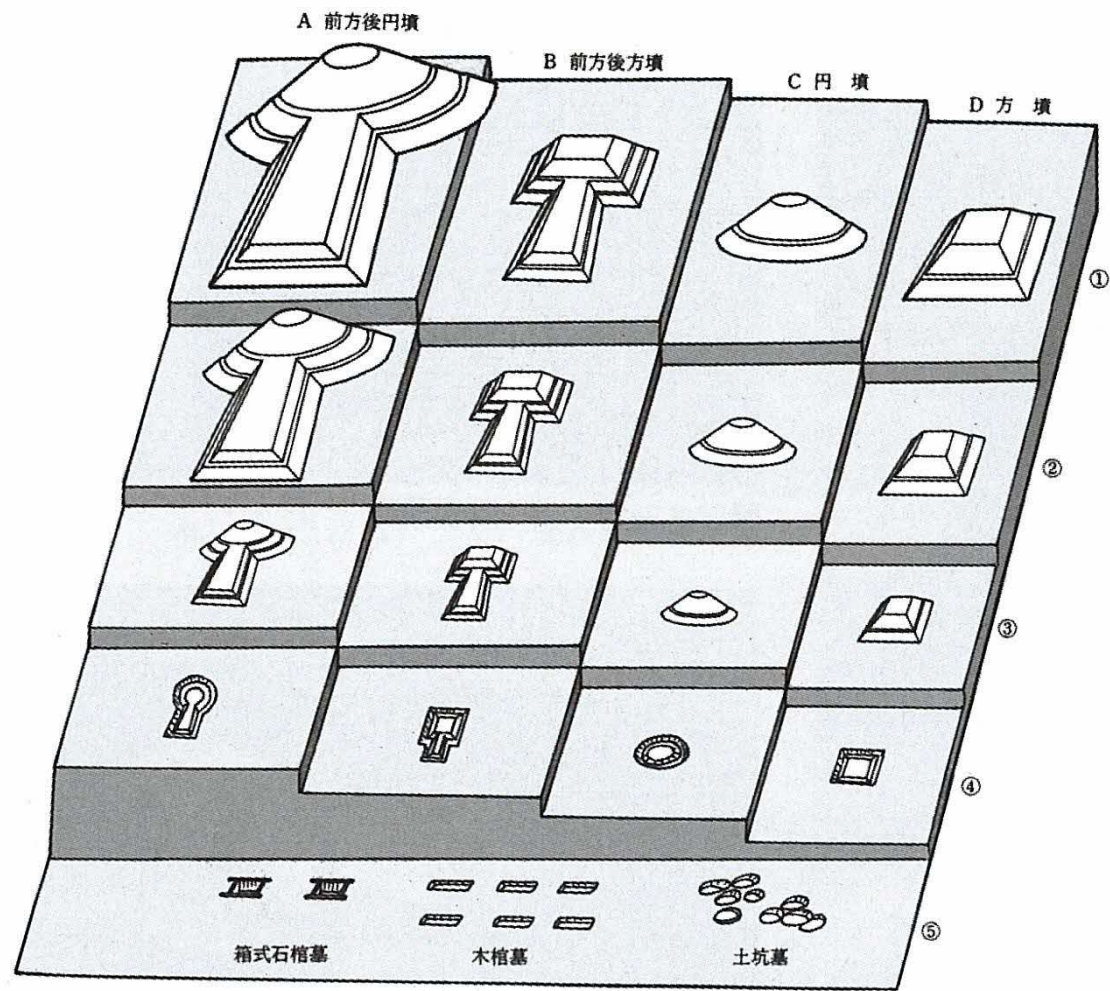


図 11 古墳の階層性

土器編年 畿内	山陰	中四研 編年	石見	出雲・雲南		出雲		伯耆		因幡		但馬・丹後		中四研 編年
				出雲・雲南	松江	安来	米子	倉吉・東伯	赤坂今井	但馬・丹後				
庄内2・3	草田4	弥生時代後期 終末		青木2号 西谷4号墓 中野美保	沢下6号	間内越4号	安養寺1号	父原墳丘墓						弥生時代後期 終末
	草田5		西谷9号墓		宮山4号墓	徳楽墳丘墓 石井垣上河原 4号墓	藤和墳丘墓	糸谷墳丘墓	赤坂今井					
布留0	草田6		土井・砂1号 神原正面北 E5号	柴尾3号	客山1号	社日1号 小屋谷3号	小谷古墳	石井垣上河原 1号墓	三度舞大將塚	桂見2号	美和32号	大田南2号		
	小谷2		神原神社	佐々布下1号	奥才56号			白原6号				森尾	大田南5号	
布留1	小谷3古		四塚 庵寺9号墳	松本1号	布志名大谷 1号	奥才13号	古城山 寺床	造山3号 八幡山	普段寺1号 青木Fsx05	横枕23 横枕22 俊文4号 美和34号 横枕61		大田南4号 加悦丸山		
	小谷3新		庵寺5号墳	斐伊中山2号	浅所北	奥才14号	塩津山1号	青木Fsx01 石州府29号	国分寺古墳	本高14号 横枕67 古海61	俊文5号 生山29号	網野鏡子山 作山1号 蛸子山		
布留2	小谷4		庵寺18号墳	山地古墳	上野1号 釜代1号	奥才34号	通山1号	青木Fsx07 青木Fsx03 青木Fsx02	日下39号 日下25号	上神大將塚 馬の山4号	古海40 韓田6 俊文2号 俊文3号	六部山3号 六部山46号 深谷1号 神明山 カジヤ古墳	大田南6号 白米山	
	大角山		庵寺22号墳	大元	北小原3号 大塚大塚 刈捨	奥才12号	五反田1号	尾高19号 霞17号 日下18号		古部家1号	古部家1号	作山2号 黒部鏡子山		
布留3	北山1号													
布留4														

図 13 山陰前期古墳編年

・白塗りは墓石のないもの。
・黒塗りは墓石のあるもの。
・網掛けは編年根拠の薄いもの。
・破線は墳形が不明確なもの。

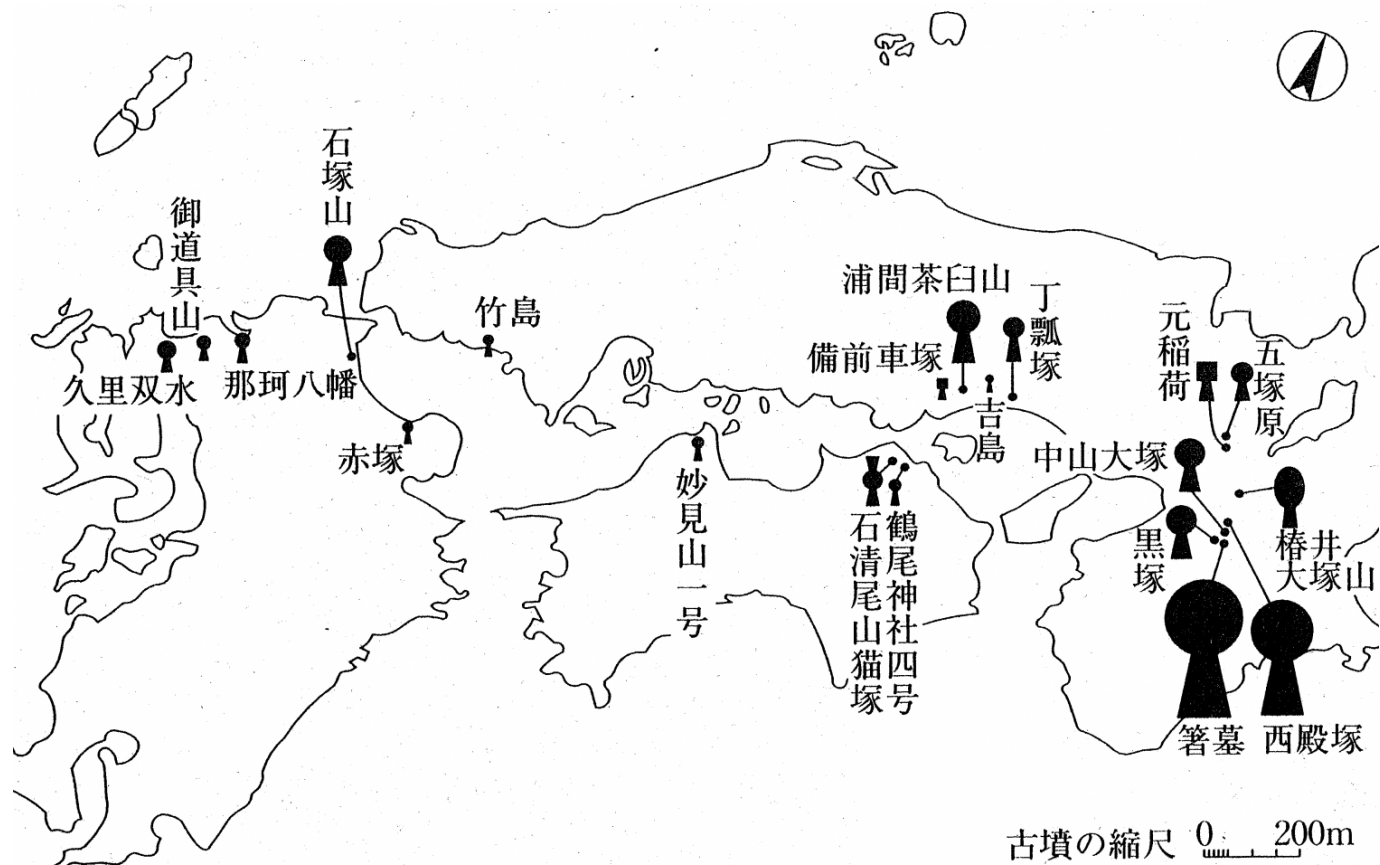


図 12 西日本の初期前方後円墳の分布

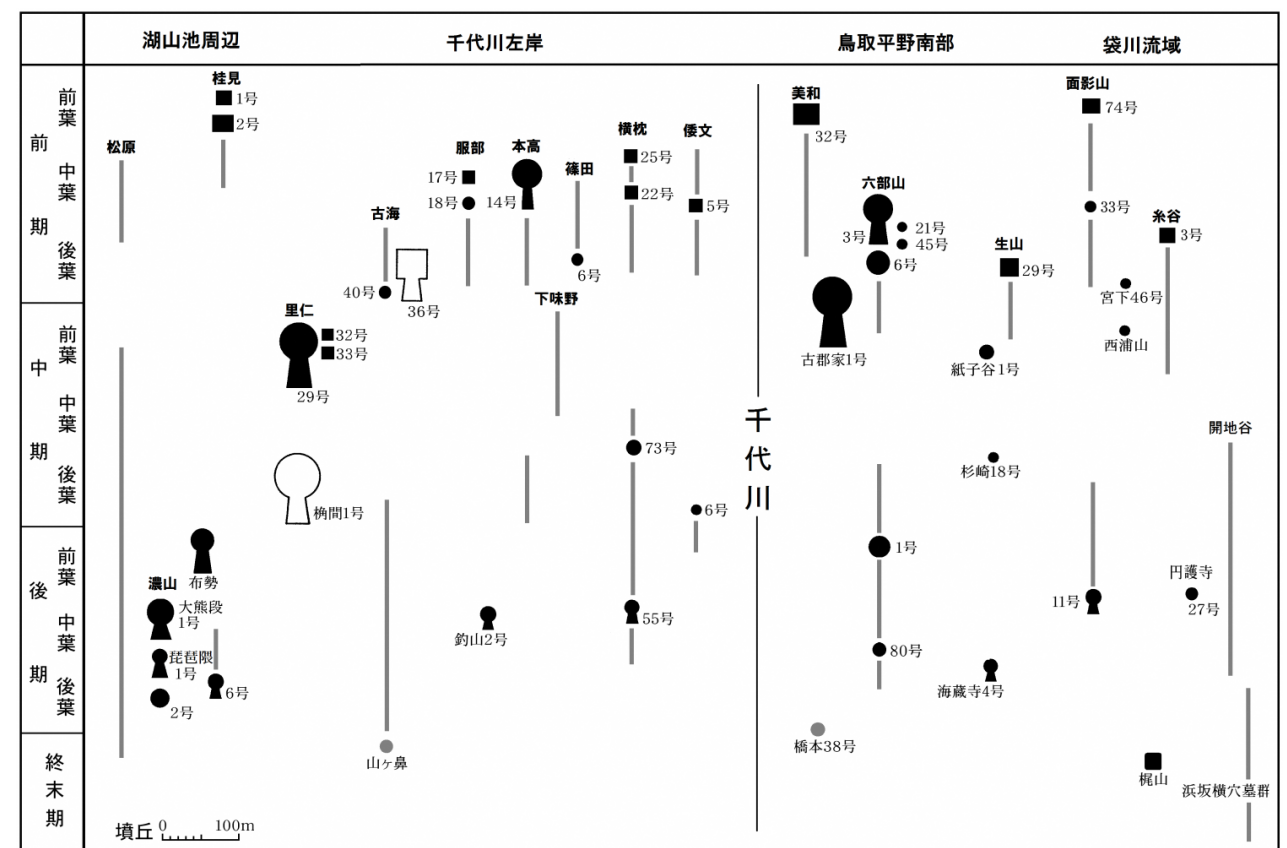


図 14 鳥取平野の古墳編年

※白ヌキは時期比定の根拠が薄いもの。灰は墳形の根拠が薄いもの。